

農道（整備中）



農道の工事の様子です。

人口が希薄な農村でも、大型機械・大型輸送車が通れる通作・輸送経路が無くては、効率的な農業は成立しません。

今では道があるのが当たり前ですが、開拓当初は昼なお暗く足下に草木の生い茂り小川が幾筋も流れる原生林を徒歩で移動する手段しかありませんでした。

大きな川の向こうに行くときにも、渡し船や橋ができるまでは、浅い場所を選びつつ腰まで水に浸かって歩いて渡るのが当たり前でした。

まだ農村が貧しかった時代には、凶作救済のための土木事業として道路工事が行われたこともありました。